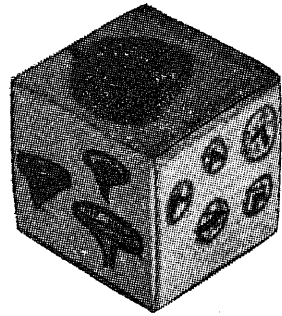


# たのしい あしづこ

(さいころ)



及川ふみ

幼児の製作の一つの大きな目標は「喜んでものを作る」と云うことである。これは幼児指導要録にもよくうたわれていることである。幼児が喜んでものを作り、楽しい環境にあることはただ製作の上のみのことではなく、幼稚園生活のすべての面でかくあつて楽しい一日として終始しなければならぬことはゆうまでもない。しかもその楽しさは幼児たちが幼稚園生活を経過するに従つて、外から与えられる楽しさだけでなく、幼児自身が楽しい生活をつくり出すことである。つまり幼稚園は幼児が自ら楽しい場所として充分に遊ぶところであることを目標にして、幼児の生活指導をしなければならぬ。

しかし入園当初は、家族的なせまい小さい集団の家庭内生活から、広い範囲の友人や先生たちとの集団生活への大きな変化であるから、この点よく理解して出来るだけ幼児たちから気安くこの大変化に順応するように最初の指導に工夫が必要である。

それには先づ第一が新入幼児たち一人一人の実体をよく知ることである。家庭の状況調査、その他の方法で幼児をよく知ることである。出来ればなるべく具体的に詳細にわたつ

てわかっているとよい。例えば歌をうたうことがすきであるかどうか。どんな歌を知っているか。缺が使えるかどうか。などの調査が出来ていると、これからの幼稚園での遊びの指導に参考にする資料ともなつて、幼児たちと早く親しくなる近道でもある。とにかく幼児たちが自分たちの幼稚園であるという親しみをもつて、毎日幼稚園へ喜んで来ることである。四月のカリキュラムはこの幼稚園でも「私たちの幼稚園」が主題としてとりあげられている所以でもあろう。

このたのしい幼稚園生活で、おもしろいお話をきき、うれしそうなりズム遊びを見ることはほとんどの幼児たちは気安くこれにはいつてゆけるであろうか。絵をかくことや、製作することなどになるといづれの幼児にも気安くはいつてゆくことは望めない場合があるかもしれない。それは絵をかくことや、缺を用うことなどは、その家庭環境などで個人差が多いからそれに対しての興味も差の多いことも当然なことである。

ここで製作にはとくに最初の導入について特別の考慮がはられなくてはならないと思われる。

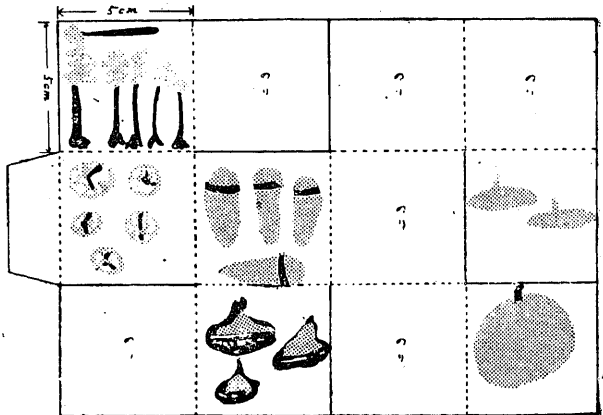
今その一つのゆき方として「風車」について考えてみることにする。

先生或は年長組の幼児たちが、あらかじめ幼児一人づつ与えられるだけの風車を用意しておいて、まずこの風車で一人一人が充分に遊ぶことである。そのあとで風車の製作にはいるということにしてはどうであろうか。このときの風車は、模造紙では幼児の一人一人が活動の面が少いから白紙を材料として、或は色をぬり、或は絵をかきなど、風車をつくるのに、幼児一人一人の創意をいかす部分をもたせることである。そして出来上った風車はそのばで幼児たちのおもちゃとして遊ばせて満足させることである。この様なゆき方は画用紙でつくるコマなどでも同じである。二三度こんなやり方ですれば幼児たちは気安く製作に興味をもてることにもなるであろうと思われる。

ものを作る興味を製作の第一目標とする上は、そのつくられたものが幼児のおもちゃになることも同時に考えられることである。そして、そのおもちゃは必ずしも幼児一人の手でつくられるものばかりを材料にえらばなくてもよい。それは幼児たちは平面のものより

立体のものを喜び、静的のものより動的のものを喜ぶものである。したがって工作の点で幼児だけの考えでは求めるものが得られない場合がしばしばある。電車、自動車などの乗物は作つてみたい、ほしいと思うがこれの立体的な工作図は出来ない。しかも平面的の電車や自動車の切りぬきだけでは満足が得られない。こんな状態の場合は先生の方で進んで援助して、その製作への興味を満足させる様に指導の機会を補促しなければならぬ。先生の方で電車製作の展開図をつくつて与え、その各部、窓、昇降口、乗客、ホールなど、幼児自身が活動出来る面を充分に発展させて、先生と幼児との協力によつて一つのおもちゃが出来上るといふゆき方である。このやり方がその準備のために、先生たちが多くの労力を費すのでなかなか実際の点で、のぞめないうことになる。この点を考えて「たのしいおしごと」を案じたわけである。昨年第一集を案じたが幸によるこびむかえられたので、さらに第二集をつづけて作つたわけである。

そのたのしいおしごとの第二集にお正月の材料としてさいころをとりあげた。さいころは六面ともに、同じ重さであることが最初に



考えられる条件である。そのため、えをかき部分かとびとびになつている。図の(のり)でない部分に、それぞれのものと、数とを考へてかくわけである。

こどもたちは案外様々なものを材料にとりあげて。例えば一人は

- (1) リンゴ (2) ベレエー帽 (3) くり

(41頁へ)

で勿ごうと思つて待ちかまえている。牛のベスとレディーは、ミルクをくれることを忘れやしない。いつでもミルクを用意してくれるからね」

「でも、どうして毎日御馳走をあげるの」

「おじいちやまは、今年はいつでもお正月のように、楽しい日にしてやりたい。おじいちやまが、あれたちに感謝しているということを、よく知らせてやりたいんだよ」

「きつと牛にも馬にも、わかるわねえ。牛たちは、おじいちやまが、そばによつて行くと、いつでもうれしそうに『モー』となくのね。馬たちは、おじいちやまに鼻をこすりつけるわ。みんななにか知つていることを、おじいちやまにお話しようとしているんだわ」ジエリーちゃんがいきました。するとお祖父さまに、ここにこなさつて、

「そうだねえ」とおつしやいました。

(「ゴールドイ・グラント・テイルル女史の作による」)

## おしらせ

昭和二十七年六月廿八日から七月卅一日まで、お茶の水大学主催にて開催いたしました幼稚園教員免許法認定講習会の倫理・体育原理・児童心理・保育課程の四単位の単位証明書が出来ますから、お序での折、取りにおいて下さいませ。お待ち致しております。

お茶の水女子大学附属幼稚園内

講習会係り

(37頁より)

(4) スリツバ (5) 時計  
(6) 立木 又一人は、

1 コーヒー茶碗 2 ケーキ 3 ナシ

4 おさだ 5 チューリップ 6 イス

などかきこんだ。絵をかき終つてから、縦横の線に折目をつけ、実線の部分だけ切り、絵のある部分が上に出る様に四角に作つて、糊ではりつける。自分たちで作つたえすころくで自分達で作つたえすころくをこころがせて、遊んでいる幼児達の様子を嬉しそうに眺められるものは、幼児の製作を実際に指導するものが味わえる妙味というものであろう。